

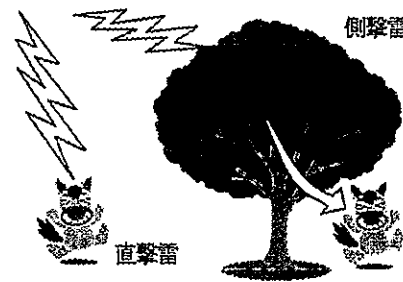
雷から身を守るための基礎知識

近年、激しい雷雨に襲われることが多くなりました。雷は、静電気を蓄えた雷雲と大地の間でおこる火花放電で、瞬時に数千アンペアから数十万アンペアの大電流が流れます。そのため、人が雷の直撃を受けた場合はいうまでもなく落雷地点の近くにいた場合も、この大電流によって重大な傷害を受けることになります。どこに落ちるか分からない雷は昔から恐れられてきましたが、正しい知識を持って行動すれば、落雷に起因する事故は防ぐことができます。次のことに留意して、雷から身を守りましょう。

基礎知識1 直撃雷だけではありません。

落雷による傷害には、次の4つがあります。

- (1) 直撃による傷害 —— 人体に直接落雷することによって受ける被害
- (2) 側撃による傷害 —— 落雷した物体からの放電（側撃）によって受ける被害
- (3) 歩幅電圧傷害 —— 地表面を流れる落雷電流から受ける被害。落雷地点の近くで座ったり寝転んでいたりすると、この被害を受けることがある。
- (4) 電線などを伝わる高電圧による傷害 —— 落雷地点の近くで、電線や電話線、金属管などを經由して人体に高電圧が加わることから受ける被害



(Fig. 1)

基礎知識2 高い木の下で雨やどりは大変危険

高い木は落雷の可能性が高く、そのそばでは、電流を流しやすい構造物と違って、側撃を受ける事故が多く発生しています。これは雷の直撃を受けるのと同じで大変危険です。

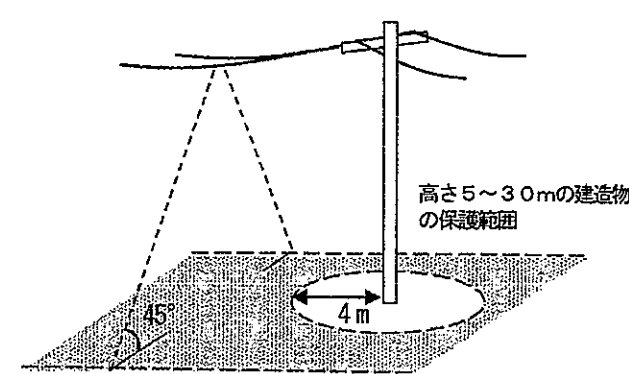
落雷に対して安全な場所、危険な場所は次のとおりです。

【十分安全な場所】ここに避難する！

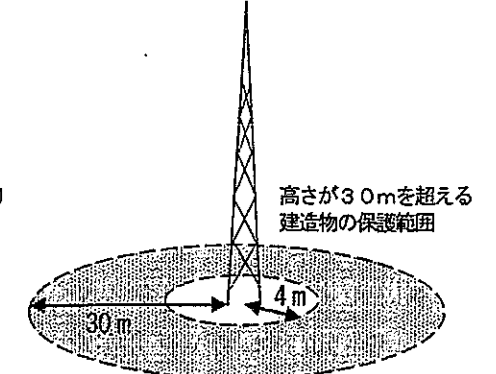
- 鉄筋コンクリートの建築物・本格的木造建築物（家屋）の中
屋内で、電灯線や電話線、それらにつながっている電気器具のほか、壁や柱などからも1m以上離れて雷が過ぎるのを待ちます。
- 屋根と壁面が鉄骨と鉄板でできている建造物の中
- 自動車・バス・列車の中

【比較的安全な場所】

- 高さ5～30mの建造物（鉄塔、建物、電柱、送電線など）の保護範囲（Fig. 2）
建造物の先端を見上げる角度が45°以上の範囲内。かつ側撃雷の被害を避けるために建造物から4m以上離れ、姿勢を低くして雷が過ぎるのを待ちます。
- 高さが30mを超える建造物の保護範囲（Fig. 3）
建造物から30mの範囲内。かつ建造物から4m以上離れ、姿勢を低くして雷が過ぎるのを待ちます。



(Fig. 2)



(Fig. 3)

【危険な場所】ただちに安全な場所に退避！

- 山頂、尾根、海岸、河川敷、田畑、グランドなど開けた場所
- あずまや、仮小屋、テントやビーチパラソルの下
- 高さ5m以下の物体の周囲
- 自転車 —— 特に、開けた場所を自転車で走る行為は絶対にしてはいけません。
- 高い木の周囲、林や森の中

林や森の中では、すべての木の幹や枝、葉から4m以上（それが無理であれば少なくとも2m以上）離れましょう。

基礎知識3 雷鳴が聞こえたら直ちに避難

雷鳴が聞こえる範囲は約10kmです。単一の雷雲でもその広がりには10km程あって、この範囲内ではどこでも落雷が起こり得ます。かすかでも雷鳴が聞こえたら落雷の危険範囲に入ったと判断し、ただちに安全な場所に避難しましょう。

そして雷活動が止んでも、20分以上は安全な場所で待機します。